

ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を  
目指した研究

研究代表者 八橋 弘 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 院長

**研究要旨**

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等においての啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

**1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）**

令和4年度は、HPの内容を更新した。偏見差別を防止するための事例集・解説集の紹介は11事例から3事例増やして14事例とした。2021年8月2日から2023年2月23日までの期間中11162ユーザーがHPに閲覧アクセスした。B型肝炎の感染性に関する内容についての検索が多く見られた。

**2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウム**

令和4年度は、公開シンポジウムを8月に名古屋市、12月に金沢市で現地開催し、公開模擬授業は2023年3月に東京で開催した。毎回40名近くの患者やその家族や市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題についての問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。

**3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者アンケート調査**

令和4年度はアンケート調査結果（2021年調査）の集計をおこない、2012年に同様におこなった調査結果（2012年調査）と比較検討した。

「肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある」と回答した者の頻度は、2012年調査では16.4%、2021年調査では17.3%と変化がみられなかったが、C型肝炎患者では14.2%から11.1%と有意に減少していた。「いやな思いをしたことがある」と回答した者の特徴として、C型肝炎患者よりもB型肝炎患者で、男性よりも女性で、高齢者よりも若年者に多いという特徴がみられた。

悩みとストレスの頻度は、2012年調査では50.5%、2021年調査では33.7%と明らかに減少し、特にC型肝炎患者では50.9%から26.2%へと半減していた。その理由としては、C型肝炎患者のSVR率が、2012年調査では41.1%、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる。C型肝炎に対するDAA治療の普及により、高率なウイルス排除が可能となり、このことがC型肝炎患者の悩みとストレスの軽減に大きく貢献したと考えられた。

**4. 動画の作成**

高校生等の若年層への啓発の教材として、学校生活の場においてB型肝炎の感染性や感染症への差別偏見の問題を扱いながら、適切な対処法を指導する内容の3分12秒の動画を作成し、Youtube上に公開した。

研究分担者	
四柳 宏	東京大学医科学研究所・先端医療研究センター感染症分野・教授
磯田 広史	佐賀大学医学部附属病院・肝疾患センター・副センター長
是永 匡紹	国立国際医療研究センター・免疫研究センター・肝炎情報センター・肝疾患研修室長
米澤 敦子	東京肝臓友の会・事務局長
中島 康之	東京肝臓友の会／全国B

	型肝炎訴訟大阪弁護士団・恒久対策班事務局長
梁井 朱美	東京肝臓友の会／全国B型肝炎訴訟九州原告団
及川 綾子	東京肝臓友の会／薬害肝炎全国原告団・薬害肝炎東京原告団代表
浅井 文和	日本医学ジャーナリスト協会・会長
研究協力者	
山崎 一美	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 肝臓内科、臨床研究センター

## A. 研究目的

### A-1. 研究の背景

肝炎対策基本法に基づき、「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」が策定された。その指針には、肝炎ウイルスの感染者および肝炎患者に対する不当な差別が存在することが指摘されている。平成23年度から3年間、龍岡資晃元学習院教授による「肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究」班が組織され研究が実施された。また、平成28年には指針の改定が行われ、肝炎患者等に対する不当な差別や、それに伴う肝炎患者等の精神的な負担が生じることのないよう、正しい知識を身に付け、適切な対応に努めること、などが明記された。

平成29年度から3年間は、「肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害防止への効果的な手法の確立に関する研究」班（研究代表者：八橋 弘）が組織され下記の内容の研究が実施された。①肝炎ウイルス感染者の偏見や差別による被害の実態を明らかにした。

②看護学生、医学部学生及び病院職員を対象としたウイルス肝炎の感染経路及びウイルス肝炎の感染性についての理解度に関する調査をおこなった。③肝炎患者への偏見差別を考える公開シンポジウムを福岡、札幌、大阪、東京、那覇、広島、仙台、佐賀、東京で開催した。肝炎ウイルス感染者の偏見差別に関する座談会集を作成した。

今までの政策研究で実施された肝炎患者に対する偏見や差別に関する調査によって、その実態は明らかになった、それらをどのように伝え、偏見や差別を解消するための方策につなげていくかについては十分な検討がなされていない。

### A-2. 研究目的

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等における啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

## B. 研究方法

本研究班では、主に下記の4点について

**B-1.** 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）を作成して一般公開する。

**B-2.** 偏見・差別の地域差を考慮した上での

公開シンポジウムを開催する。

**B-3.** ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者調査をおこなう。

**B-4.** 高校生等の若年層への啓発の教材として動画を作成し、Youtube上に公開した（図1）。

（概要図）

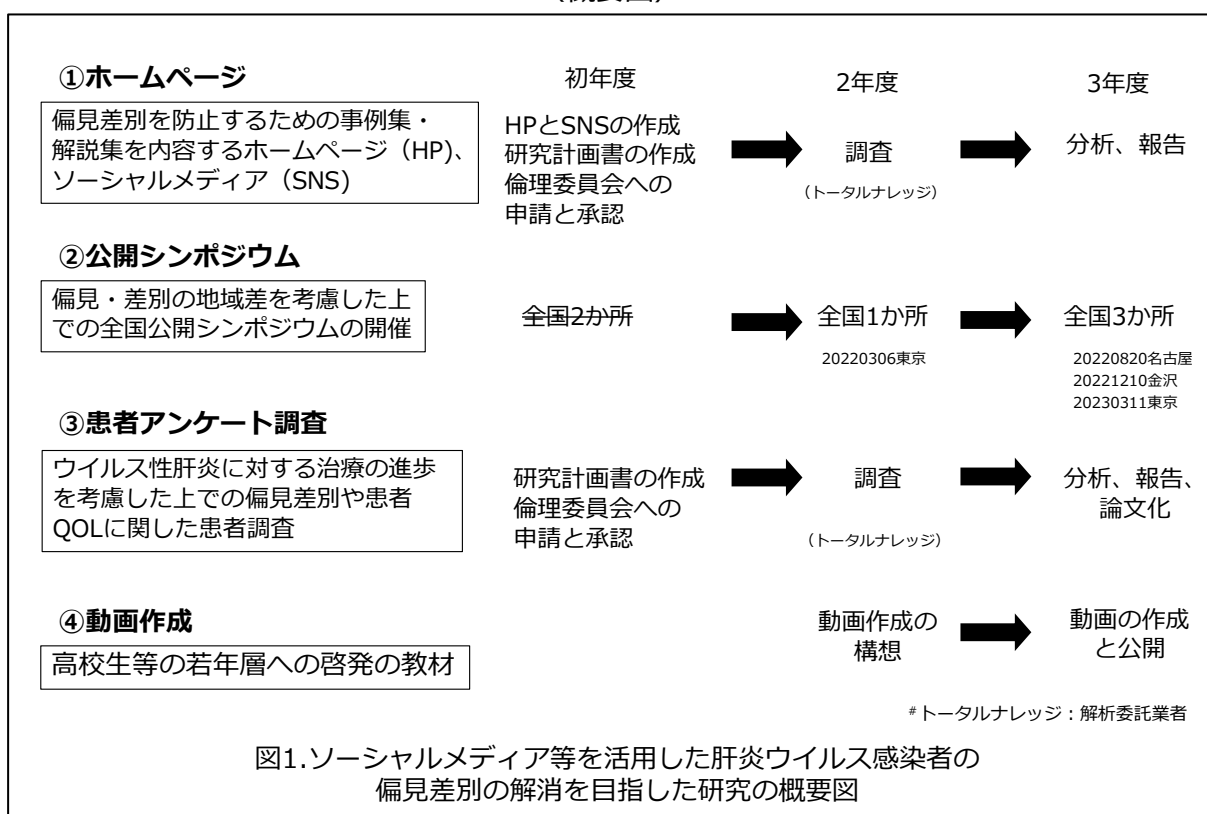


図1. ソーシャルメディア等を活用した肝炎ウイルス感染者の偏見差別の解消を目指した研究の概要図

## C. 研究結果と考察

**C-1.** 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ（HP）、ソーシャルメディア（SNS）の作成

HPには、研究班の紹介、偏見差別を防止するための事例集・解説集の紹介、ウイルス肝炎の感染経路や感染確率についての理解度を自己学習するプログラム、交流広場、様々な情報提供する場、などを作成し公開し

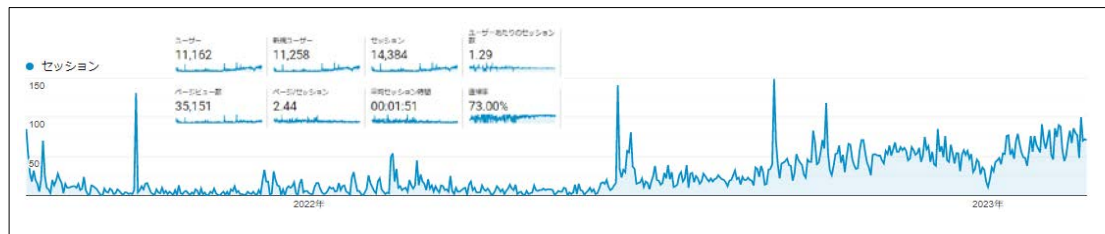
ている（図2）。令和4年度は、HPの内容を更新した。偏見差別を防止するための事例集・解説集の紹介は11事例から3事例増やして14事例とした。

2021年8月2日から2023年2月23日までの期間中11162ユーザーがHPに閲覧アクセスした（図3）。B型肝炎の感染性に関する内容についての検索が多く見られた（図4）。



図2.肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ

全期間（2021年8月2日～2023年2月23日）



Googleによる検索

2021年10月8日～2023年2月8日（過去16か月間）



図3.ホームページへのアクセス状況

上位のクエリ10件 (クリック数の降順)	クリック 数	表示回数	掲載順位
B型肝炎キャリアの人と付き合い	323	3894	2.97
B型肝炎 風呂で感染	171	5002	2.85
C型肝炎 介護 入浴	150	922	2.89
B型肝炎 介護 入浴	87	379	2.60
B型肝炎 看護師になれない	76	441	2.71
B型肝炎 うつる 介護	75	718	4.48
感染の三要素	70	903	3.59
B型肝炎 入浴 順番	68	1113	5.13
B型肝炎 歯医者 申告	67	561	4.90
感染成立の3要素	50	1190	6.21

図4. Webサイトの検索ワード上位10件

## C-2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウムの開催

令和4年度は、公開シンポジウムを8月に名古屋市で、12月に金沢市で現地開催し、公開模擬授業は2023年3月に東京で開催した。毎回40名近くの患者やその家族や市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見

差別の問題についての問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。なお、これらの公開シンポジウムと公開模擬授業参加者は、通常健康管理対策や感染対策に加えて、事前に唾液検体を用いたコロナ診断の定性キットでコロナ陰性を確認して参加された(図5)。

20220820名古屋

20221210金沢

20230311東京

図5.公開シンポジウムと模擬授業

### C-3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者アンケート調査

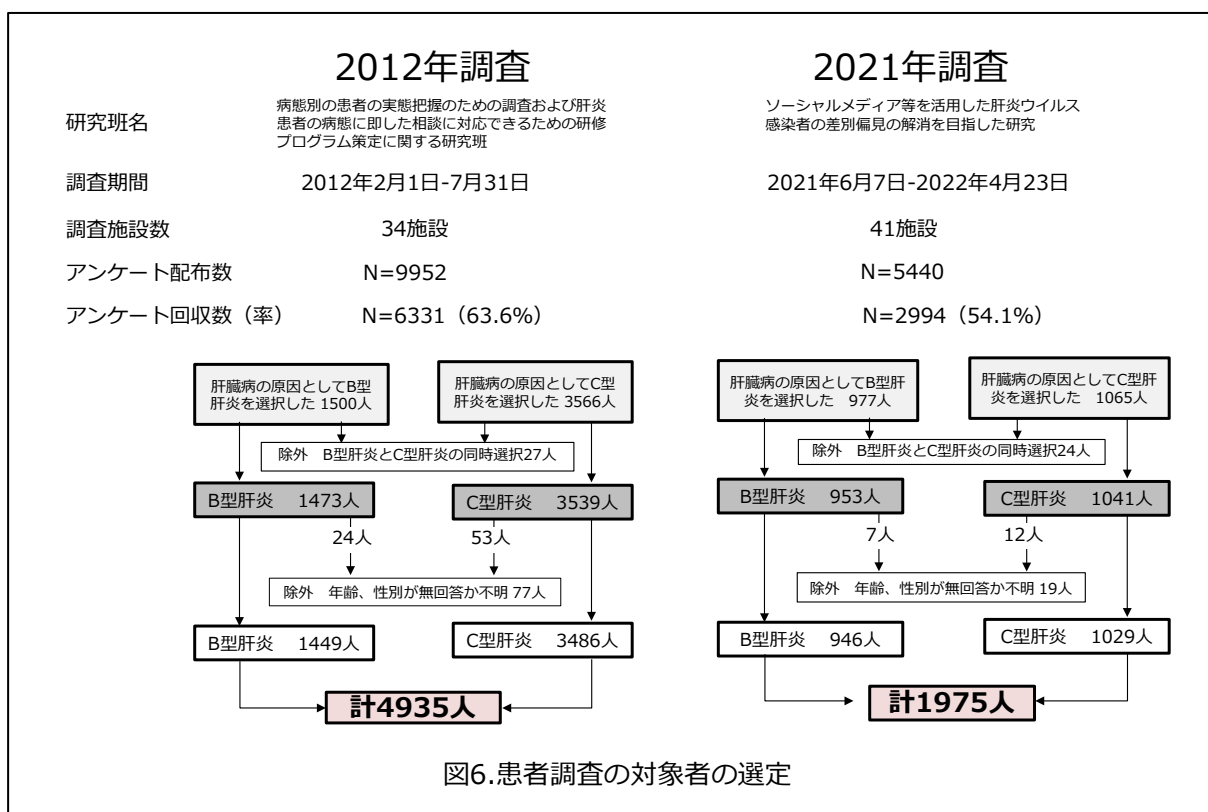
令和 2 年度は、ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者 QOL に関する患者調査の項目を検討しアンケート調査内容を確定させた。令和 3 年度は、研究計画書を作成し 2021 年 6 月 7 日の倫理審査委員会の承認をえた（承認番号 2021023）。その後、国立病院機構病院と肝疾患診療連携拠点病院に通院中の患者を対象にアンケート用紙を配布後、回収し集計をおこなった。研究協力いただいた調査施設数は国立病院機構 33 施設、肝疾患診療連携拠点病院 8 施設の計 41 施設である。

2021 年 6 月 7 日から 2022 年 4 月 23 日

までの期間に 5440 名の肝疾患患者にアンケート用紙を配布して、うち 2994 名（54.1%）から回収できた。以下、この期間の調査を（2021 年調査）と定義する。

今回の 2021 年調査結果と 2012 年 2 月 1 日から 7 月 31 日までの期間に同様の設問で実施した調査結果（以下、2012 年調査と定義する）について両群の頻度の違いについても検討をおこなった。なお、2012 年調査での B 型肝炎患者数は 1449 名、C 型肝炎患者数は 3486 名で計 4935 名である。また、2021 年調査での B 型肝炎患者数は 946 名、C 型肝炎患者数は 1029 名で計 1975 名である（図 6）。

各設問に対する対象者数の内訳については図 7 に示した。



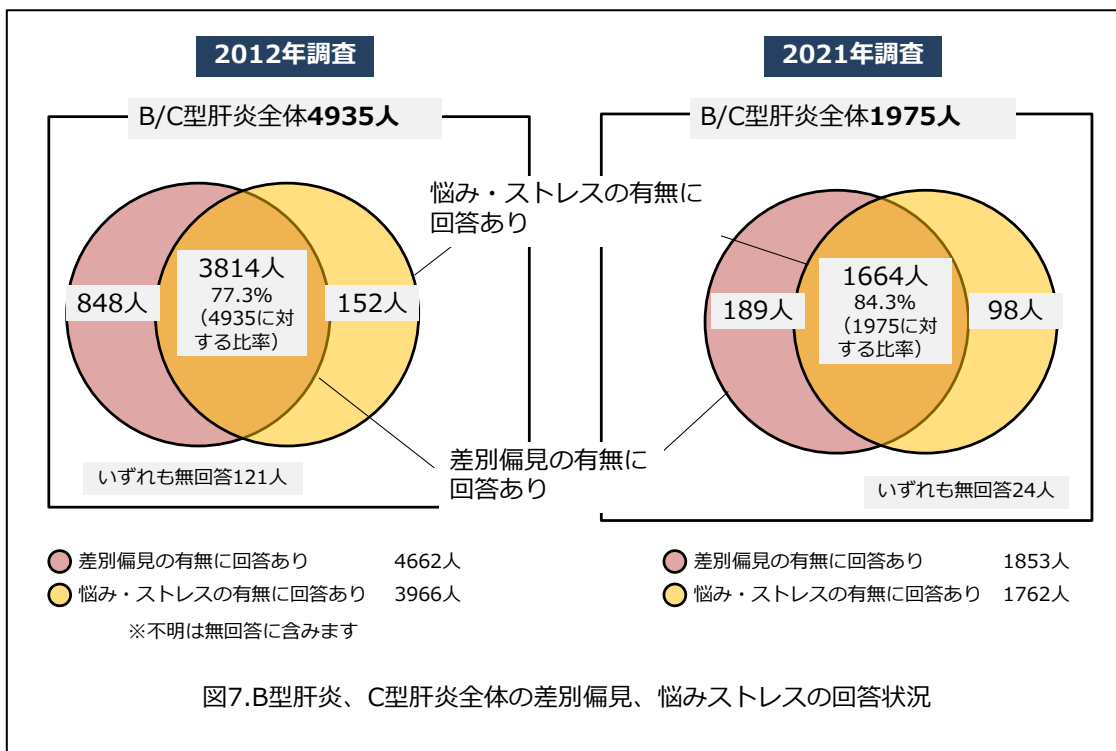


図7.B型肝炎、C型肝炎全体の差別偏見、悩みストレスの回答状況

肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがありますかという設問に対して、「いやな思いをしたことがある」と回答した者の人数と頻度は、2021年調査では1853名中321名(17.3%)、2012年調査では4662名中764名(16.4%)で両群に頻度の差は認められなかった。B型肝炎患者では2021年調査では

895名中215名(24.0%)、2012年調査では1370名中296名(21.6%)と、同様に両群に頻度の差は認められなかったが、C型肝炎患者では2021年調査では958名中106名(11.1%)、2012年調査では3292名中468名(14.2%)で、2012年調査に比較して2021年調査では、その頻度は有意に低下していた(P<0.05)(図8)。

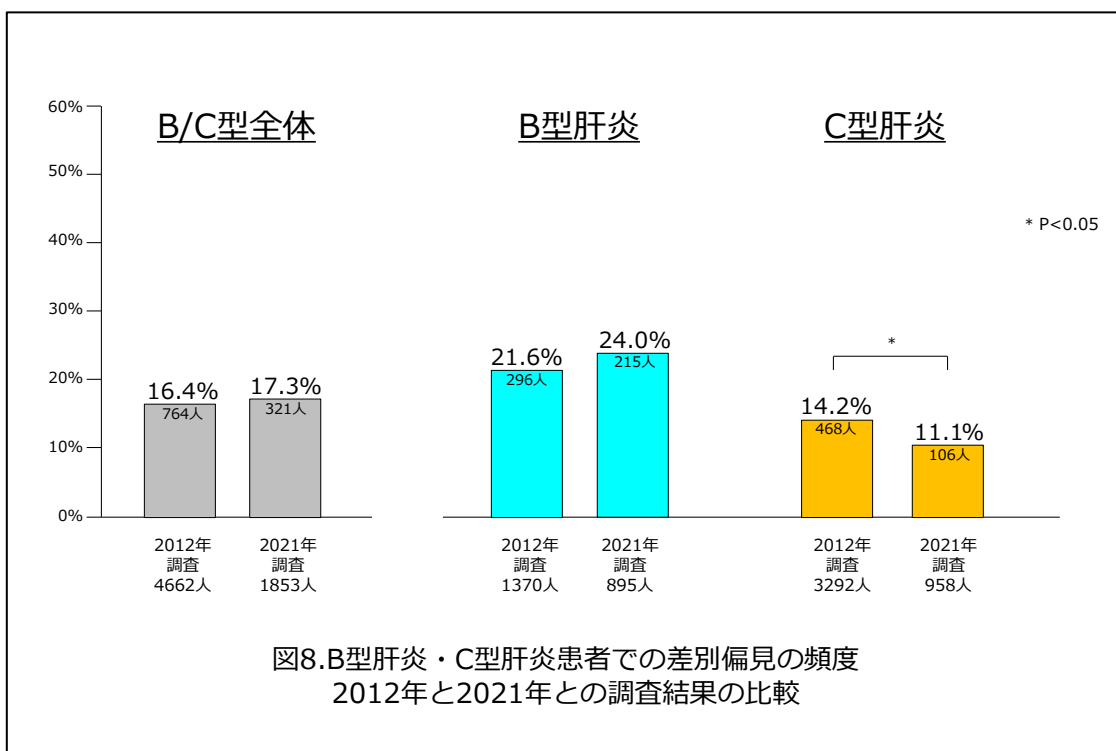


図8.B型肝炎・C型肝炎患者での差別偏見の頻度  
2012年と2021年との調査結果の比較

B型肝炎患者を対象として、男性と女性、50歳未満、50歳代、60歳代、70歳以上の年齢層別に、2021年調査と2012年調査で「いやな思いをしたことがある」と回答した者の人数と頻度を算出したものが図9である。60歳代の男性でその頻度は12.2%から23.6%に有意に増加していたが、その他の群では、2021年調査と2012年調査で頻度

の差は認められなかった。

同様にC型肝炎患者を対象として、男性と女性、50歳未満、50歳代、60歳代、70歳以上の年齢層別に人数と頻度を算出したものが図10である。2021年調査と2012年調査で「いやな思いをしたことがある」と回答した者の頻度の差は認められなかった。

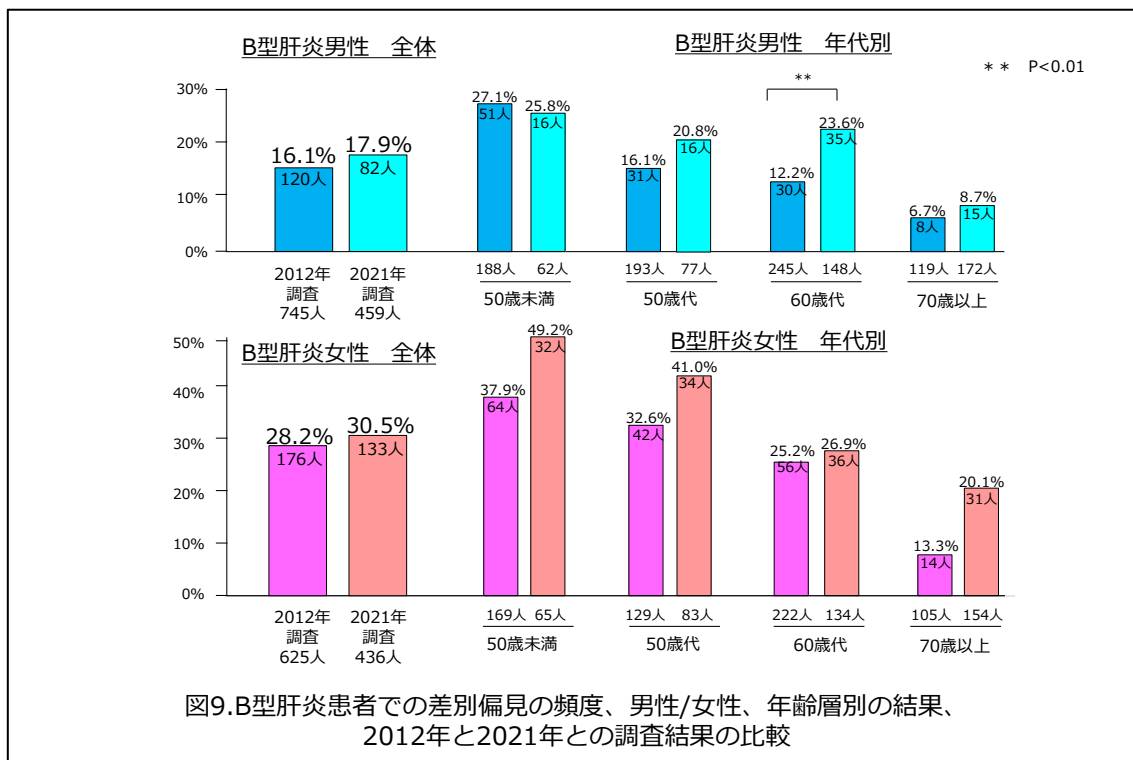


図9.B型肝炎患者での差別偏見の頻度、男性/女性、年齢層別の結果、2012年と2021年との調査結果の比較

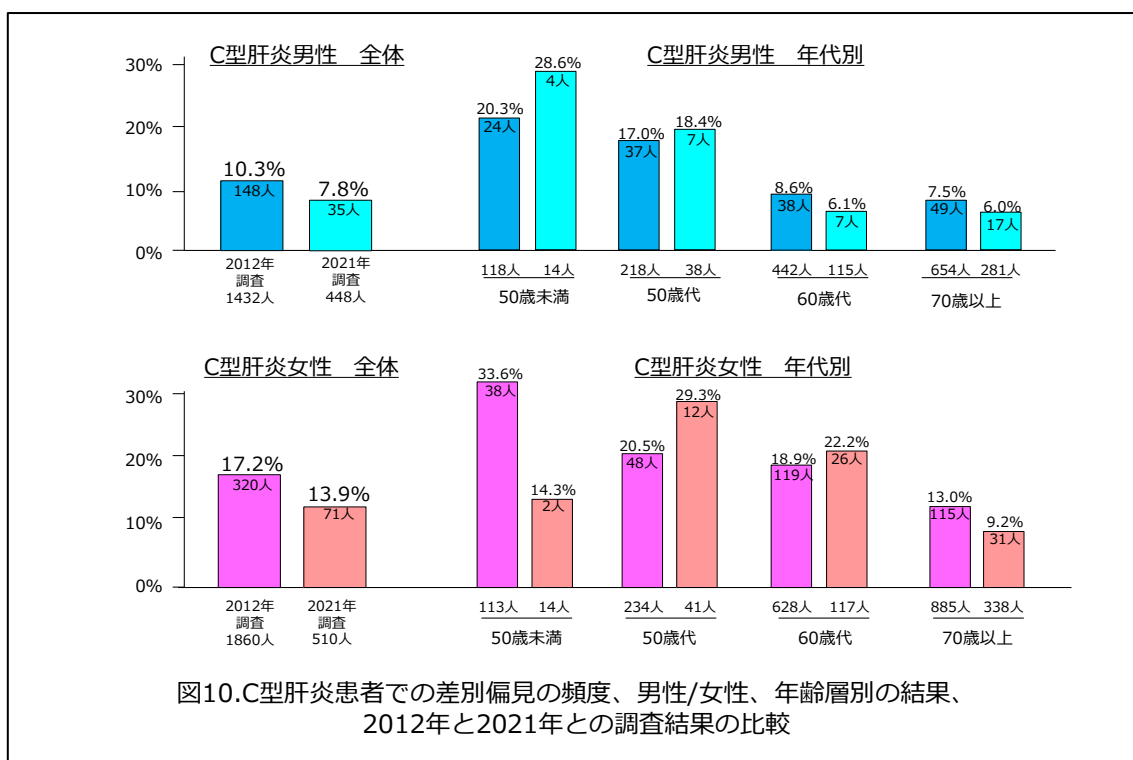


図10.C型肝炎患者での差別偏見の頻度、男性/女性、年齢層別の結果、2012年と2021年との調査結果の比較

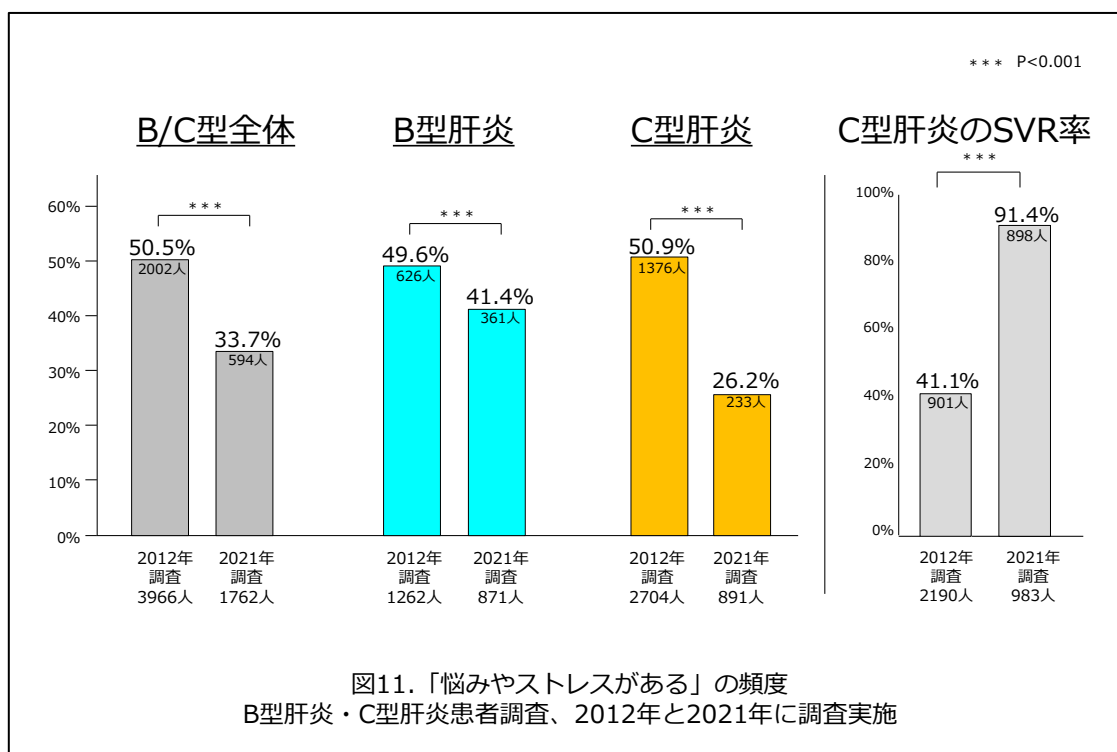


一方、日常生活で、肝臓病を患っていることによる悩みやストレスがありますか、という設問に対しては、「悩みやストレスがある」と回答した者の人数と頻度は、2021年調査では1762名中594名(33.7%)、2012年調査では3966名中2002名(50.5%)で両群に有意な頻度の差は認められ、(P<0.001) 2021年調査では、2012年調査に比較して「悩みやストレスがある」と回答した者の頻度は有意に減少していた。

B型肝炎患者では、「悩みやストレスがある」と回答した者の頻度は2021年調査では871名中361名(41.4%)、2012年調査では1262名中626名(49.6%)であり、C型肝炎患者で「悩みやストレスがある」と回答した者の頻度は2021年調査では891名

中233名(26.2%)、2012年調査では2704名中1376名(50.9%)であった。B型肝炎患者とC型肝炎患者ともに、2012年調査に比較して2021年調査では、「悩みやストレスがある」と回答した者の頻度は有意に低下していた(P<0.001) (図11)。

C型肝炎患者で「悩みやストレスがある」と回答した者の頻度が有意に減少した理由としては、C型肝炎患者のSVR率が、2012年調査では41.1%であったが、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる。C型肝炎に対するDAA治療の普及により、高率なウイルス排除が可能となり、このことがC型肝炎患者の悩みとストレスの軽減に大きく貢献したと考えられた。

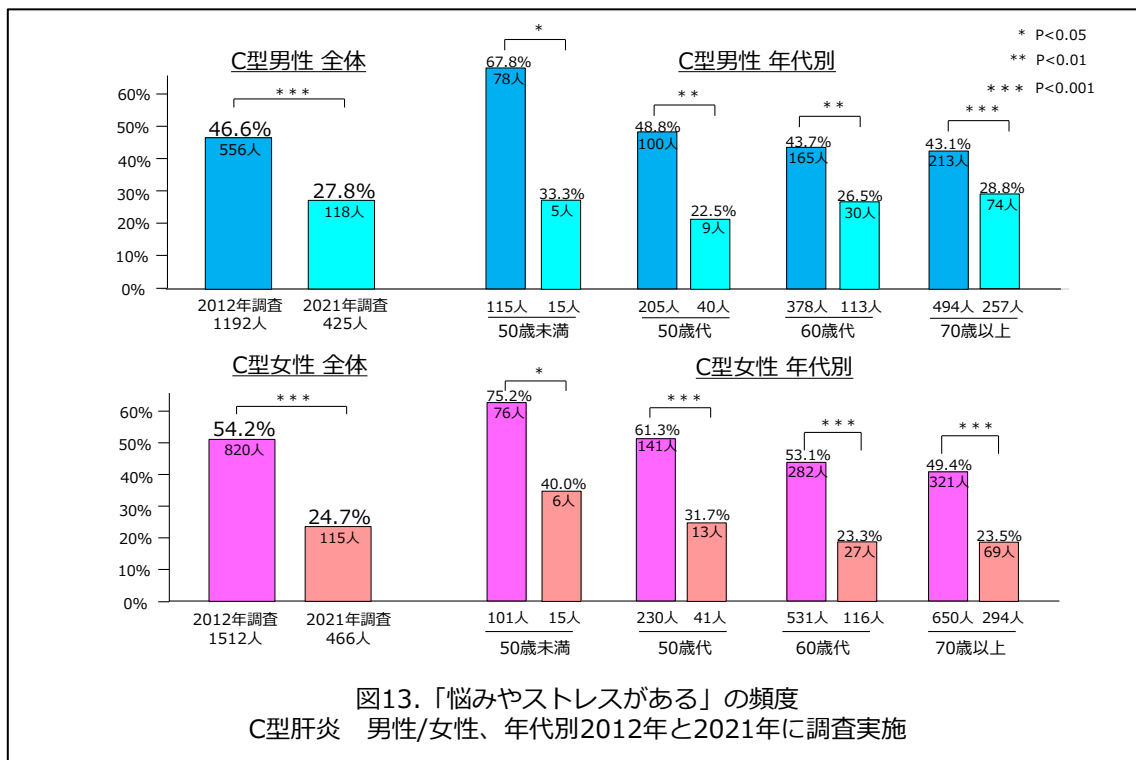
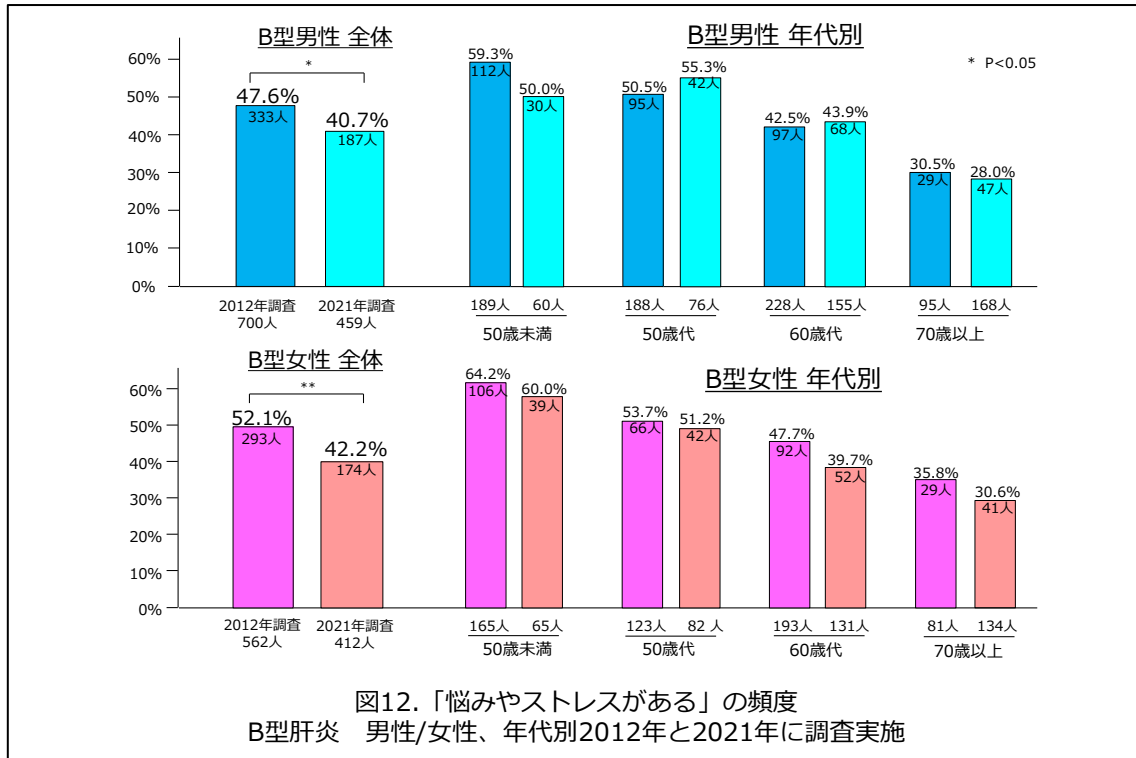


B型肝炎患者を対象として、男性と女性、50歳未満、50歳代、60歳代、70歳以上の年齢層別に、2021年調査と2012年調査での「悩みやストレスがある」と回答した者の

人数と頻度を算出したものが図12である。B型肝炎の男性患者、女性患者ともに、2012年調査に比較して2021年調査では、その頻度は有意に低下してした(P<0.05)。

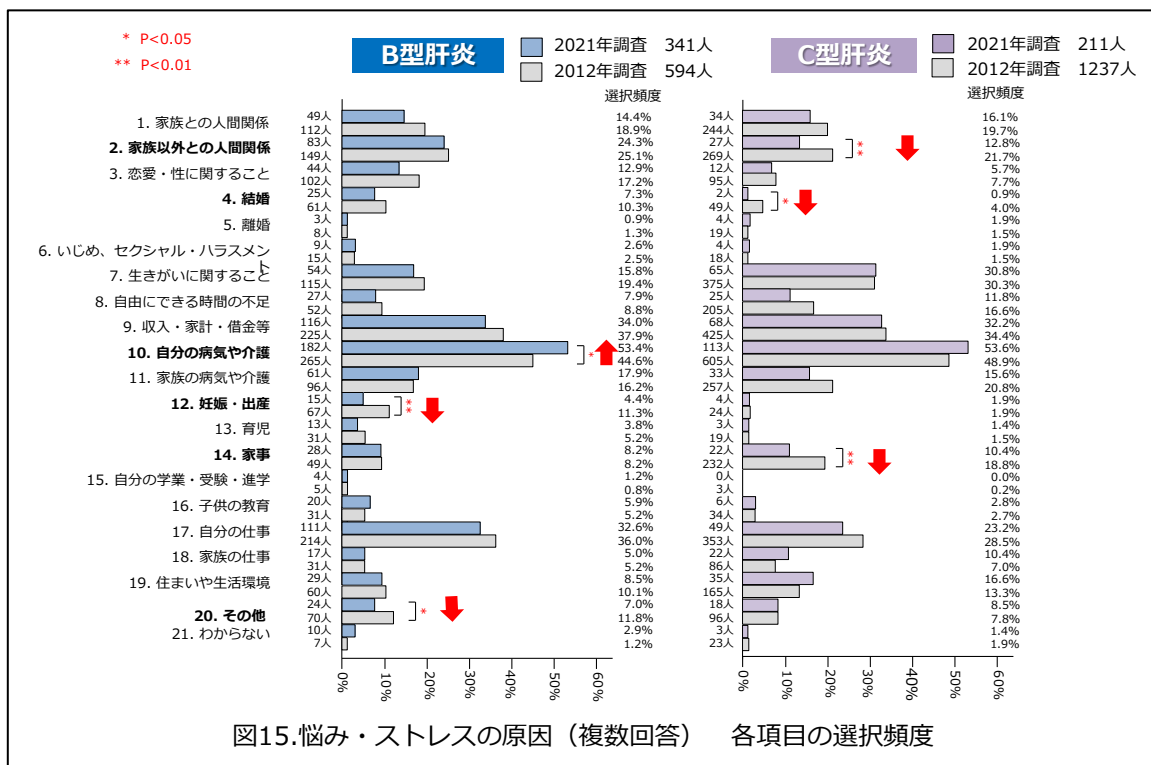
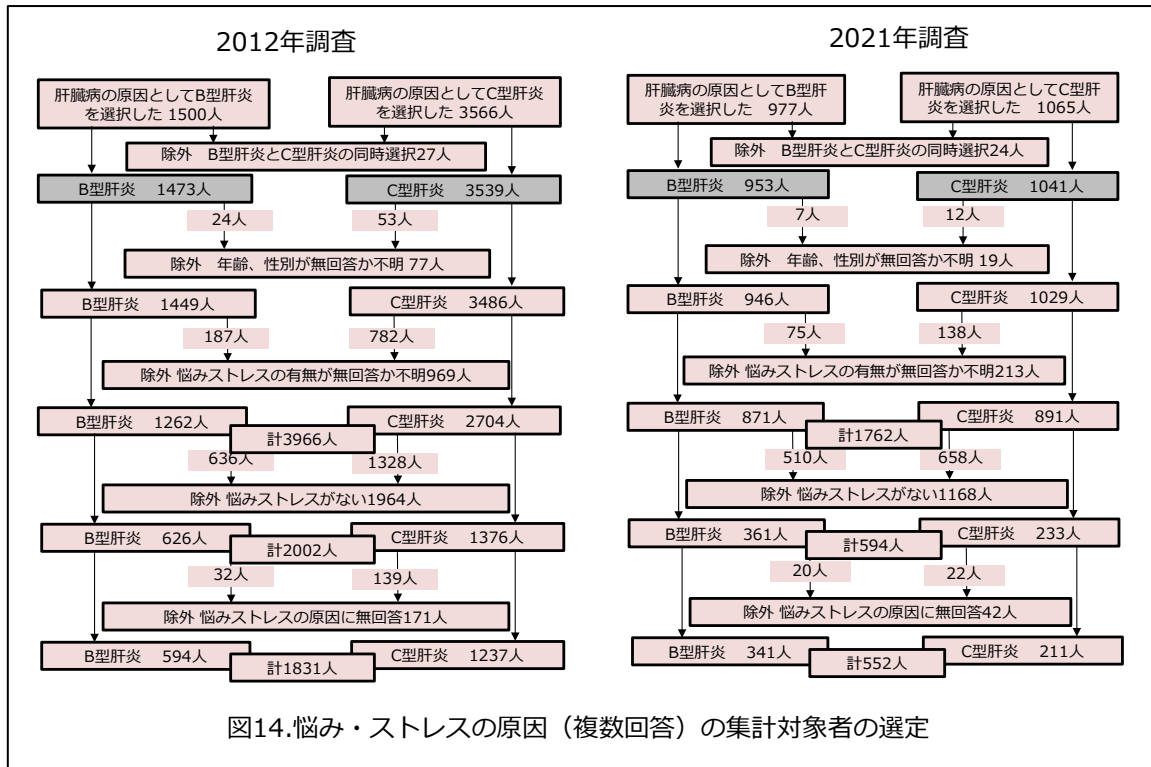
同様に C 型肝炎患者を対象として、男性と女性、50 歳未満、50 歳代、60 歳代、70 歳以上の年齢層別に、「悩みやストレスがある」と回答した者の人数と頻度を算出したものが図 13 である。男性も女性も、また 50

歳未満、50 歳代、60 歳代、70 歳以上の全ての年齢層で、2012 年調査に比較して 2021 年調査では、その頻度は有意に低下していた (P<0.05、P<0.01、P<0.001)。



次に「悩みやストレスがある」の原因についても集計をおこなった。集計対象者の選定方法は図14に明示した。2012年調査と比較して2021年調査で「悩みやストレスがある」の原因の頻度で上昇していた内容とは、B型肝炎患者で、「自分の病気や介護」に関する内容であり、その頻度は有意に増加して

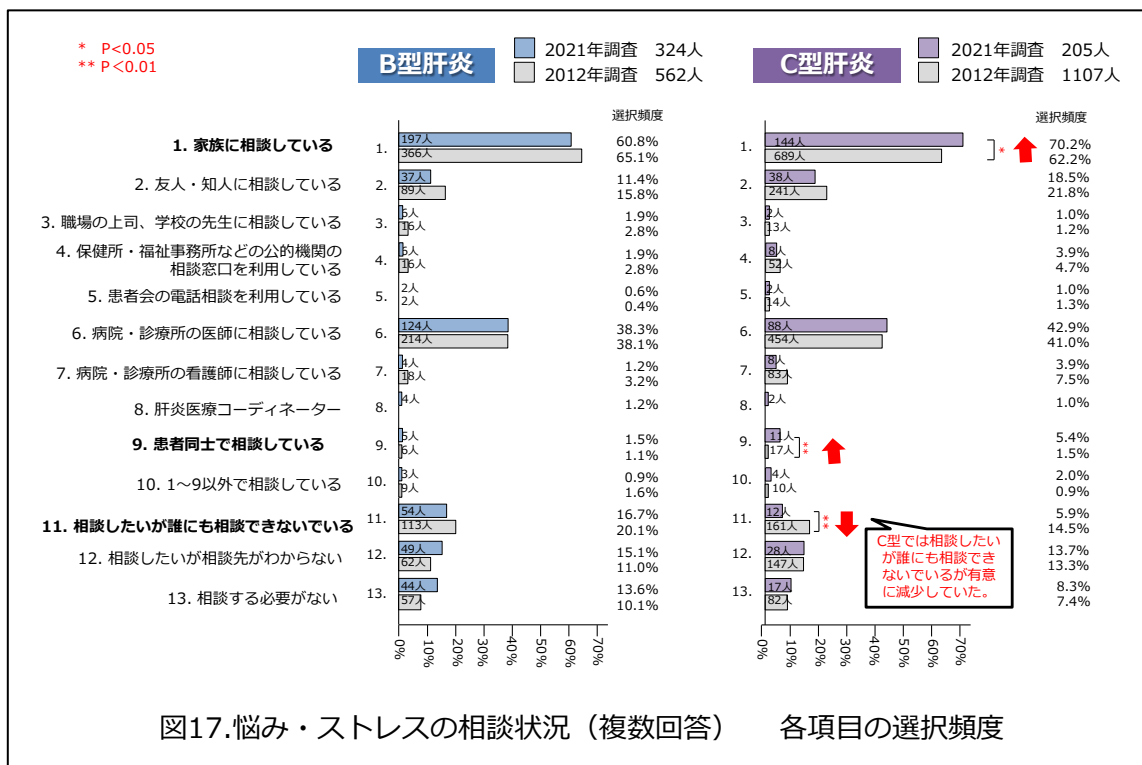
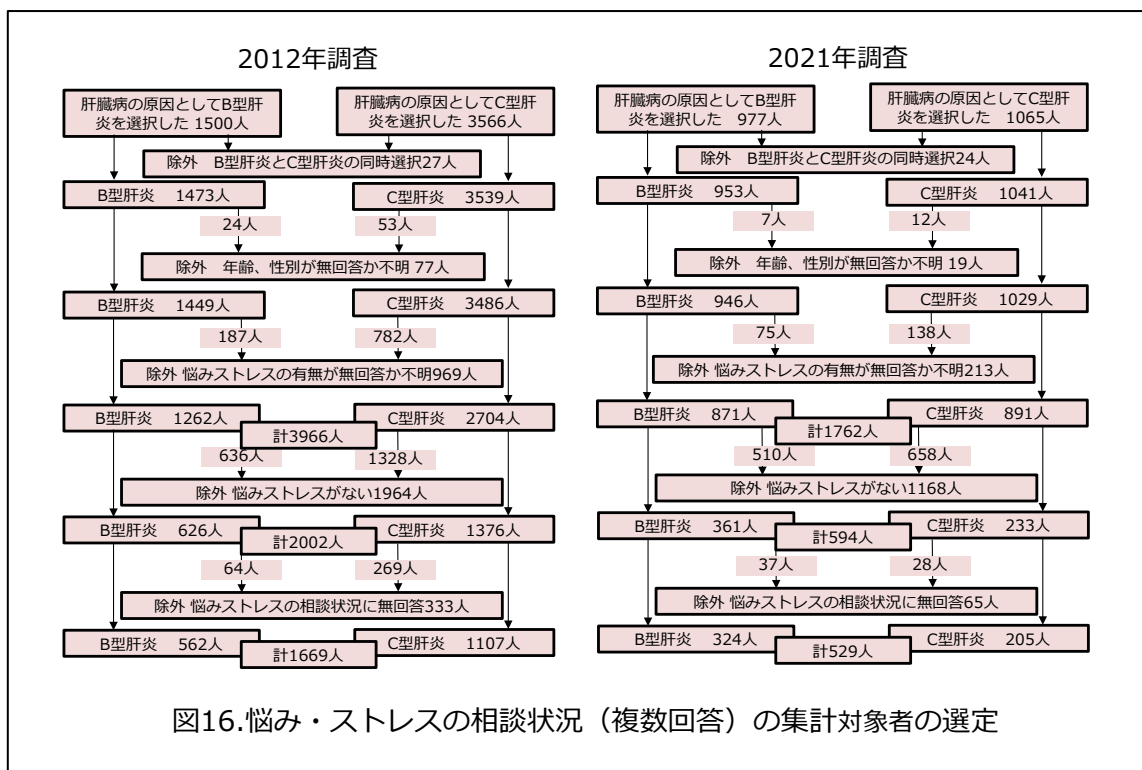
いた ( $P<0.05$ )。その一方で、B型肝炎患者で、「妊娠/出産」や「その他」に関する内容はその頻度は減少していた。次にC型肝炎患者で、「家族以外との人間関係」や「結婚」や「家事」に関する内容は、その頻度は有意に減少していた ( $P<0.05$ ,  $P<0.01$ )。



次に「悩みやストレスがある」の相談状況についても集計をおこなった。集計対象者の選定方法は図16に明示した。B型肝炎患者では、2012年調査と2021年調査とその頻度には差が認められなかったが、C型肝炎患者で、「家族に相談している」や「患者同士で相談している」の頻度が有意に増加し

( $P<0.05, P<0.01$ )、「相談したいが誰にも相談できない」の頻度は有意に減少していた( $P<0.01$ )。

C型肝炎患者のこれらの変化も、SVR率が、2012年調査では41.1%、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる。



### C-4. 動画の作成

高校生等の若年層への啓発の教材として、学校生活の場において B 型肝炎の感染性や感染症への差別偏見の問題を扱いながら、適

切な対処法を指導する内容の3分12秒の動画を作成し、Youtube 上に公開した(図18、19)。



図18.3分12秒の動画作成（学校編）1

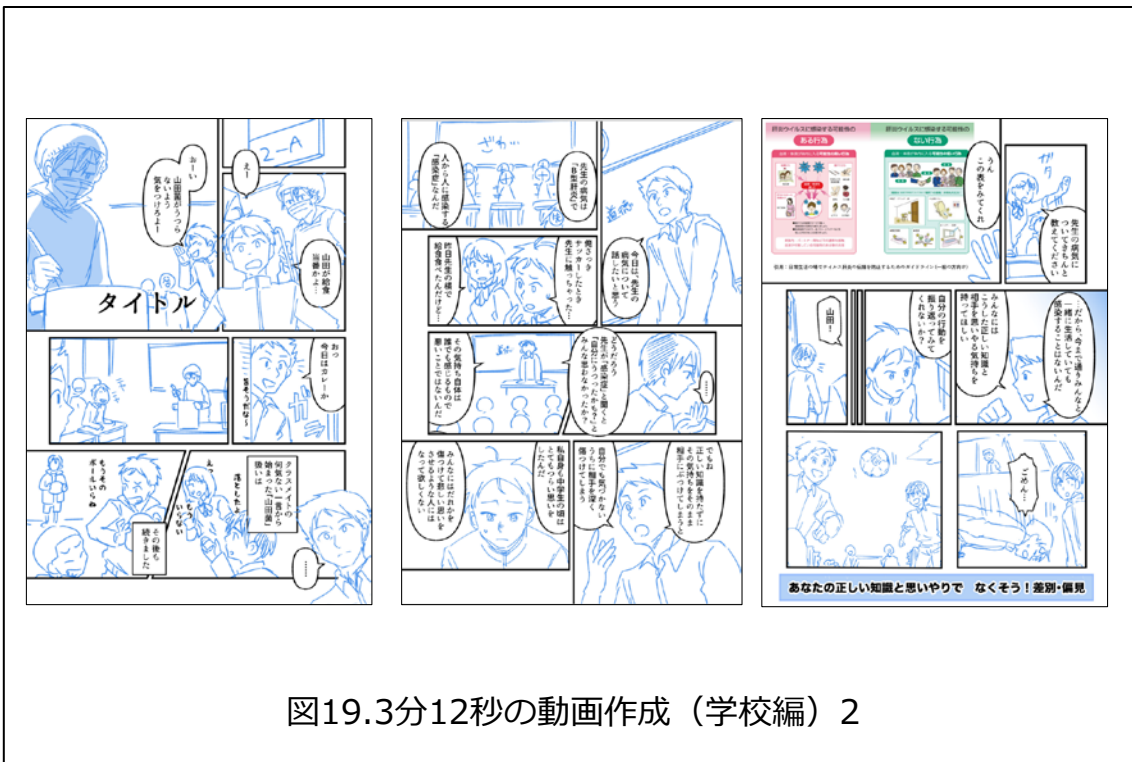


図19.3分12秒の動画作成（学校編）2

## D. 結論

本研究では、偏見や差別の解消のために、既存の方法に加えソーシャルメディア等を活用した方策の有効性を検討する。特に、肝炎患者と関わることが多い医療機関等においての啓発や、高校生等の若年層への啓発方法について検討をおこなう。

### 1. 肝炎ウイルス感染者への偏見差別を防止する為の事例集、解説集を内容とするホームページ (HP)

令和4年度は、HPの内容を更新した。偏見差別を防止するための事例集・解説集の紹介は11事例から3事例増やして14事例とした。2021年8月2日から2023年2月23日までの期間中11162ユーザーがHPに閲覧アクセスした。B型肝炎の感染性に関する内容についての検索が多く見られた。

### 2. 偏見・差別の地域差を考慮した上での公開シンポジウム

令和4年度は、公開シンポジウムを8月に名古屋市、12月に金沢市で現地開催し、公開模擬授業は2023年3月に東京で開催した。毎回40名近くの患者やその家族や市民や医療従事者が参加し、肝炎患者の偏見差別の問題についての問題提起、事例紹介、今後の課題などについて活発な意見交換をおこなった。

### 3. ウイルス性肝炎に対する治療の進歩を考慮した上での偏見差別や患者QOLに関する患者アンケート調査

令和4年度はアンケート調査結果(2021年調査)の集計をおこない、2012年に同様におこなった調査結果(2012年調査)と比較検討した。

「肝炎に感染していることで偏見差別を受けるなどいやな思いをしたことがある」と回答した者の頻度は、2012年調査では16.4%、2021年調査では17.3%と変化がみられなかったが、C型肝炎患者では14.2%

から11.1%と有意に減少していた。「いやな思いをしたことがある」と回答した者の特徴として、C型肝炎患者よりもB型肝炎患者で、男性よりも女性で、高齢者よりも若年者に多いという特徴がみられた。

悩みとストレスの頻度は、2012年調査では50.5%、2021年調査では33.7%と明らかに減少し、特にC型肝炎患者では50.9%から26.2%へと半減していた。その理由としては、C型肝炎患者のSVR率が、2012年調査では41.1%、2021年調査では91.4%と増加していたことが考えられる。C型肝炎に対するDAA治療の普及により、高率なウイルス排除が可能となり、このことがC型肝炎患者の悩みとストレスの軽減に大きく貢献したと考えられた。

### 4. 動画の作成

高校生等の若年層への啓発の教材として、学校生活の場においてB型肝炎の感染性や感染症への差別偏見の問題を扱いながら、適切な対処法を指導する内容の3分12秒の動画を作成し、Youtube上に公開した。

## E. 健康危険情報

なし。

## F. 研究発表

1. 論文発表なし
2. 学会発表

2022年3月18日の肝炎対策推進協議会で、本研究班の活動報告をおこなった。

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
なし。